

優良現場一覧（2016年以降の受賞現場）

表彰区分	受賞年月日	現場会社名	発注者及び工事名	事績の主な内容
委員長	2016.2.22	大林組九州支店	国土交通省九州地方整備局 東九州道(清武～北郷)椿山トンネル新設工事	<ul style="list-style-type: none"> 全てのダンプカーには、ドライブレコーダーを設置し、緊急時に他社車両殿情報伝達を可能にするため教養無線を配備している。 土捨て場まで長距離であるので、運搬経路に男子と女子の簡易トイレを設置して、工事関係者以外の人にも使用可能としサービスを図っている。 過積載防止対策として、荷台にマークをつけて、積載量を管理するとともに、土質の変化時には定期的にトラックスケールで重量確認をしている。 トラック運転手の安全運転啓蒙のため、運搬経路に分かりやすいオリジナル看板を設置している。 運搬経路の巡回パトロールを、元請と協力会社の他に警備会社にも依頼して実施し、朝礼時に巡視結果を周知徹底させている。
委員長	2016.12.14	大日本土木	国土交通省関東地方整備局 中部横断自動車道佐久穂地区改良6工事	<ul style="list-style-type: none"> 全てのダンプカーにGPS内臓スマートフォン搭載し、リアルタイムに車両の走行軌跡、速度等の管理をPCタブレット端末により事務所を確認している。 土捨て場まで長距離で、特にブレーキの点検には注意を払っており、出発前にブレーキテスト場所で確実にブレーキの状態をチェックしている。 速度、過積載防止対策として、土砂搬出時にトラックスケールで重量確認をするほか、定期的に追跡調査を実施して走行速度等をチェックしている。 交通安全教育は、地元の佐久警察署に要請して交通課員に来てもらうなど、本格的な交通安全教育に取り組んでいる。 重機には警報表示器、外部アンテナを設置し、現場入場者にはICタグを携帯させ、重機設置のアンテナがICタグの信号を検知すると、警報表示器からLEDとブザー音で重機オペレーターに警告を発する方式を採用して災害防止に取り組んでいる。
委員長	2017.7.19	五洋・本間・土志田JV	横浜市道路局 高速横浜環状北西線東方換気所 建設工事	<ul style="list-style-type: none"> 土砂運搬のダンプカーにGPS内臓スマートフォンを搭載し、速度超過や危険箇所を通過する際には電子音で運転者に注意喚起を行っている。 最適な土砂運搬ルートを決定し、ルート上の幼稚園、学校、病院、商店街、公園など子供や人の交通量の多い箇所を電子ハザードマップに登載した上で、「交通KY(危険予知)マップ」を作成し、安全運転と交通事故防止活動に役立っている。 ダンプからの土砂等の落下、飛散防止対策として、シート掛けエリアを設けて、運転者が荷台に上がる昇降設備や安全帯を掛ける設備を設けている。 場内全体が整理整頓されており、特にダンプカーの通行箇所には全面覆工板や鉄板を設置し、一般道路にも配慮した車両の汚れ防止の措置が講じられている。
委員長	2018.12.10	大林・鴻池JV	中日本高速道路(株)東京支社 新東名高速道路高取山トンネル東工事	<ul style="list-style-type: none"> 工事現場から合流する直近の公道は、幅員が狭く交通量も多い中、1日のダンプカーの延べ運行台数は250～300台に及ぶことから、直近の公道上部に棧橋を設置してダンプカーを迂回させ、公道の混雑緩和と安全走行を確保している。 毎日1回、安全運転管理者が独自の点検表に従って追跡調査を実施し、交通危険箇所の把握に努め、その結果を運搬ルートやハザードマップ作成に反映させている。 朝礼や毎月1回、4時間以上の安全教育を実施しながら、交通ルール・マナー運転を繰り返し指導し、その結果、交差点での一時停止時に左右確認の指差呼称を励行するなど、近隣住民から「運行状況が良い」等と発注者を通じてお褒めの言葉をいただいている。
委員長	2019.2.14	銭高組	東京都 夢の島公園東地区護岸改修工事 (その3)	<ul style="list-style-type: none"> 全てのダンプカーにGPS内臓のスマートフォンを搭載し、運行車両の速度や位置情報を一元的に管理し、安全教育等に活用している。 荷台に積載量がデジタル表示される装備を搭載した21t積の新型トレーラーダンプを導入し、荷重の正味量が正確に計測され、そのデータは会社で管理している。 毎日1回、安全運転管理者が独自の点検表に従って追跡調査を実施し、随時、交通危険箇所の把握に努め、その結果を運搬ルートやハザードマップ作成に反映させている。 交通ルール・マナーを遵守している優良ドライバーについては、給料等で処遇している。
委員長	2019.12.5	飛鳥建設	東京都下水道局 吾嬬ポンプ所施設再構築その4 工事	<ul style="list-style-type: none"> 全てのダンプカーにGPS位置情報管理システムを搭載し、運行状況の確認、渋滞情報の共有や狭い場内でダンプカーが輻輳しないよう安全管理に努めている。 運行日誌に貼付のタコグラフを確認し、速度超過の運転者に対して運行管理者が安全指導を行い、運転者が指導を受けた証として署名を確実に残している。 車両の整備に関して、自社内の有資格整備士により法定点検などが確実に実施され、その記録が管理されている。 ダンプカーに土砂積載の際、土砂ホッパーの下にダンプカーが入り、ホッパー下部から土砂を積み込み、その後、ダンプカーをトラックスケールに載せ、大型電光掲示板に表示された重量を運転者と油圧ショベルのオペレーターが確認しながら土砂を調整して搬出している。
委員長	2020.2.19	鹿島建設・須山建設JV	東京都水道局 小平市天神町三丁目地内から 同市小金井南町三丁目地先間 導水管 (2600mm)及び外1か所送水管 (2000mm)立坑築造工事	<ul style="list-style-type: none"> 全ダンプカーにドライブレコーダーとGPS管理システムを搭載し、運行管理に努め、そのデータを安全教育に活用するなど、運行経路の状況の変化に応じた安全対策を、随時運転者に周知しており、その記録も管理されている。 過積載防止対策として、土質の変化に応じた荷姿積み込みを運転者に周知し、自重計での管理の他、ポータブルトラックスケールでの全車の積載重量を管理している。 運行ルートの事前調査を行い、学校、病院、鉄道等の公共施設、商店街など子供や歩行者の交通量の多い箇所を特定し「交通ハザードマップ」として緊急連絡体制表と合わせ車両に備付け、交通事故防止に役立っている。 事業用、自家用を問わず全ダンプカーの運転者を対象に、出庫・帰庫時にアルコールチェックを実施し、その点検記録を元請職員も確認している。
委員長	2023.7.27	鹿島・竹中土木・佐藤工業 JV	東日本高速道路(株)関東支社 横浜環状南線 公田笠間トンネル 工事	<ul style="list-style-type: none"> 自社開発の車両運行管理システムを運用し、GPSにより把握した工事車両の位置情報とドライバー名や積荷に関する情報を現場事務所では把握、渋滞緩和や運行中の安全性向上を実現している。 路上駐車や渋滞を発生させないよう国道協会の発注者管理用地を借地し、20台分のダンプ待機基地を設けているほか、場内にも70台分の待機場所が設けられている。 全てのダンプカーの運転者を対象に、出庫・帰庫時にアルコールチェックを実施しており、その点検記録を元請職員も確認しているほか、現場にも検知器を設置し、適宜チェックを行っている。 過積載対策として、トラックスケールによる積載重量の管理を行っており、積載重量がバックホウの運転席及び誘導員の配置場所に表示され、オペレーター、ドライバー、誘導員の三者で視認できるようになっている。